

I 計画概要

1. 計画策定の背景、目的、位置づけ

(1) 計画の背景、目的

2市2町が合併した本市は、地域の各拠点を結ぶ道路・公共交通ネットワークが十分とは言えない。そのため、将来の人口動向やまちづくりの状況を見据えて、うるま市として目指すべき方向性や目標を策定し、交通状況改善の総合的な取り組みを計画的に進める必要がある。

本市総合計画や都市計画マスタープランで掲げる将来像実現のため、地域拠点間を結ぶ交通ネットワークの強化、観光資源を活かせるような観光周遊ネットワークの構築、物流円滑化と交通負荷軽減に向けた産業に資するネットワークの構築などの課題を解決するため、交通まちづくりの観点から上位計画として「うるま市交通基本計画」を策定する必要がある。

以上を踏まえ、うるま市交通基本計画では、本市の地域特性や関連施策等を考慮し、基本理念及び基本方針、将来像、施策の方向性等を体系的に定めるものとする。

うるま市交通基本計画（H30年度策定）

計画期間は20年間で、20年後の将来交通体系を示す。

既存ストック有効活用や、集中的な投資を行うためには、効率的に施策を推進する必要がある。

うるま市総合交通戦略（H31年度策定予定）

短・中期（5年～10年）で優先的に取り組むべき施策の具体的な内容や整備方針、実施目標時期などを明示する。

(2) 位置づけ

うるま市交通基本計画は、上位計画に掲げた将来都市像の実現に向けて、概ね 20 年後の将来都市交通体系を示す、本市における交通に関する最上位計画に位置付ける。

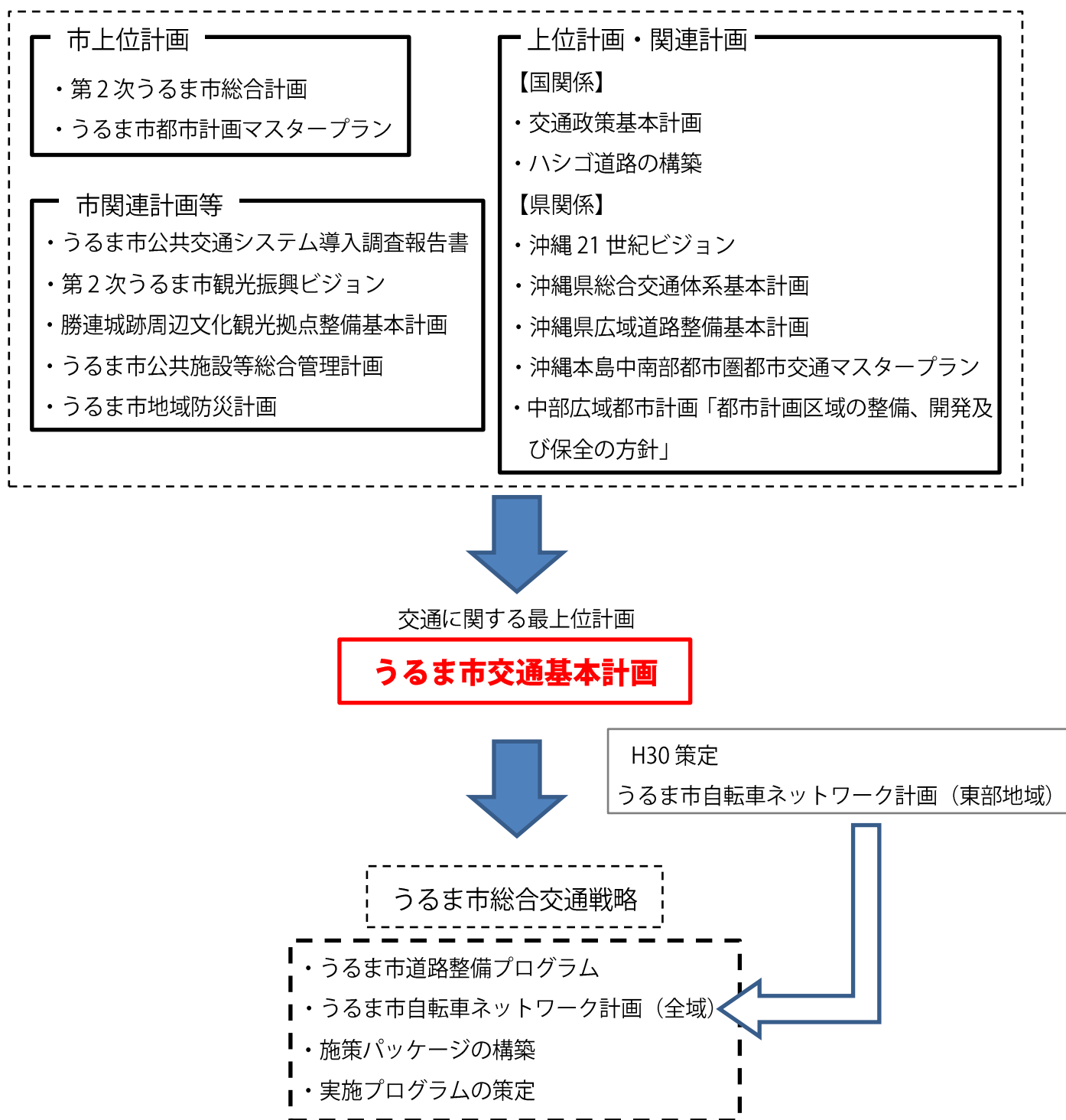


図 1 計画の位置づけ

2. 計画の目標年次

短中期計画：目標年次 2030 年（市内人口増加終了期）

【目標像】

- ・ソフト的な対策を優先し、交通環境の充実に向けた実施計画を立てその実現に努める。
- ・自動運転などの新技術の導入について検討を行いつつ、運用開始の実現を図る。
- ・道路混雑の解消に向け、発生地点ごとの要因を把握し、道路混雑の解消につなげる。
- ・鉄軌道の運用開始に先立ち、駅周辺の整備と混雑対策について検討を行う。
- ・浸水対策等、防災や減災に繋がる避難対策等の構築を図りつつ、対策工事の道筋をつける。

中長期計画：目標年次 2040 年（人口減少開始&鉄軌道運用期）

【目標像】

- ・ソフト的な対策を社会情勢等の変化に合わせて見直しつつ、実施計画の継続を図る。
- ・自動運転等の新技術の動向を見極め、その後の計画の見直しと各種対策の実現を図る。
- ・鉄軌道の運用を踏まえ、公共交通全般の見直しをしつつ、さらなる充実を図る。
- ・液状化や浸水対策など、大規模工事を実施し、災害に対する強化を図る。

3. 上位・関連計画の整理

(1) 上位計画の整理

1) 国の上位計画

- ①交通政策基本計画（平成27年2月）
- ②ハシゴ道路の構築

交通政策基本計画の基本方針

- A.豊かな国民生活に資する使いやすい交通の実現
- B.成長と繁栄のために基盤となる国際・地域間の旅客交通・物流ネットワークの構築
- C.持続可能で安心・安全な交通に向けた基盤づくり

ハシゴ道路の構築の整備計画

- ①南北を走る強固な「3本の柱」
- ②柱を支える「東西連絡道路」
- ③高速を使いやすいとするICの増設
- ④モノレールと高速バスの連携

うるま市北部には、南北を走る「3本の柱」の一部が位置しており、加えて、世界遺産や島しょ地域に繋がるネットワーク構築などが主な関連要素だとみられる。

2) 沖縄県の上位計画

- ①沖縄 21 世紀ビジョン（平成 22 年）
- ②沖縄県総合交通体系基本計画（平成 24 年）
- ③沖縄県広域道路整備基本計画（平成 5 年）
- ④沖縄県本島中南部都市圏都市交通マスタープラン（平成 21 年）
- ⑤中部広域都市計画「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」（平成 29 年）

①千年悠久の人間に優しいまちづくり

- ・県民の生活や観光に不可欠の地域資源である沖縄固有の景観・風景・風土を重視し、時間とともに価値が高まっていく「価値創造型のまちづくり」（景観 10 年、風景 100 年、風土 1000 年）を実現する。
- ・高齢化社会と脱自動車社会に対応した移動環境と交通手段の確保、日常の生活活動が身近なところで可能となる自転車や歩行者中心のコンパクトな都市づくりなど 21 世紀にふさわしい「人間優先のまちづくり」を実現する。

●道路ネットワークの整備

人・物・情報等が円滑に流れ、活力に満ち、かつ、ゆとりのある社会を形成することを目指し、空港・港湾等の物流・交流拠点間を規格の高い道路で連結するとともに、本島南北軸・東西軸を有機的に結ぶ幹線道路ネットワークを構築する。

また、今後の道路整備にあたっては、中心市街地を含む地域の活性化および住民生活の利便性の向上を図るとともに、景観、自然、歴史、文化など地域特性や自転車利用に配慮し、魅力ある観光地の形成を意識した取り組みを引き続き推進する。その他、新公共交通システム、基幹、コミバス、低炭素、離島航路など。

●健康福祉セーフティネットの整備

県民生活の基本的な支えとなる保健・医療体制、医療と連携した介護・福祉等の充実による「健康福祉セーフティネット」を整備する。

離島やへき地等に係る専門医等の医療スタッフの不足と偏在を解消するため、離島医療従事者の確保および支援を図るとともに、遠隔医療の充実、救急搬送体制の維持・改善およびヘリポートの整備等に取り組む。

②沖縄県総合交通体系基本計画の計画目標（計画期間：平成 24 年から 20 年間）

- ・強くしなやかな自立型経済の構築を支える交通体系の確立。
- ・沖縄らしいやさしい社会を支える交通体系の確立。

③沖縄県広域道路整備基本計画の概要（策定：平成 5 年）

活力ある地域づくりを推進し、豊かさゆとりある生活を実現するため、中長期視点から各種地域活性化施策を支援するために必要な高規格幹線道路と広域的な幹線道路に関する整備計画。

④沖縄県本島中南部都市圏都市交通マスタープラン目標水準（目標：平成 42 年）

環境：将来の公共交通利用率を 10%まで増加。自動車利用率を約 10%削減。

振興：公共交通や自動車の移動時間を 20%短縮。

安心：通過交通を可能な限り地域の道路へ流入させない。救急搬送エリアの拡大。

⑤中部広域都市計画「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」（平成 29 年）

快適な交通網を形成し、人と環境にやさしい交通施設。

幹線道路と連携するインターチェンジを整備し、アクセス向上に努め、利用促進を図る。

3) うるま市の上位計画

①第 2 次うるま市総合計画（平成 29 年）

②うるま市都市計画マスタープラン（平成 22 年）

第 2 次うるま市総合計画における交通体系に関する施策

福祉：ユニバーサルデザインや交通バリアフリーのまちづくりの推進。

産業：「中城湾港新港地区」東ふ頭の暫定供用による物流機能の拡充。

公共交通：路線バスの利用促進、公共交通空白地域の解消と移動手段確保の検討。

島しょ地域振興：生活環境整備の充実と津堅島等との移動手段の維持確保。

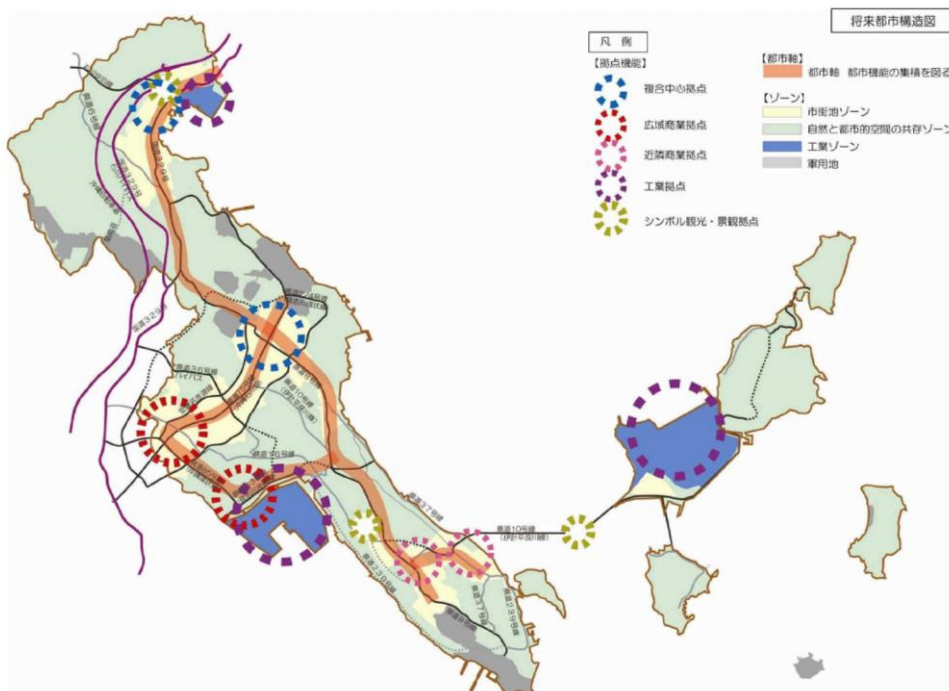


図 2 都市構造図

出典：うるま市都市計画マスタープラン

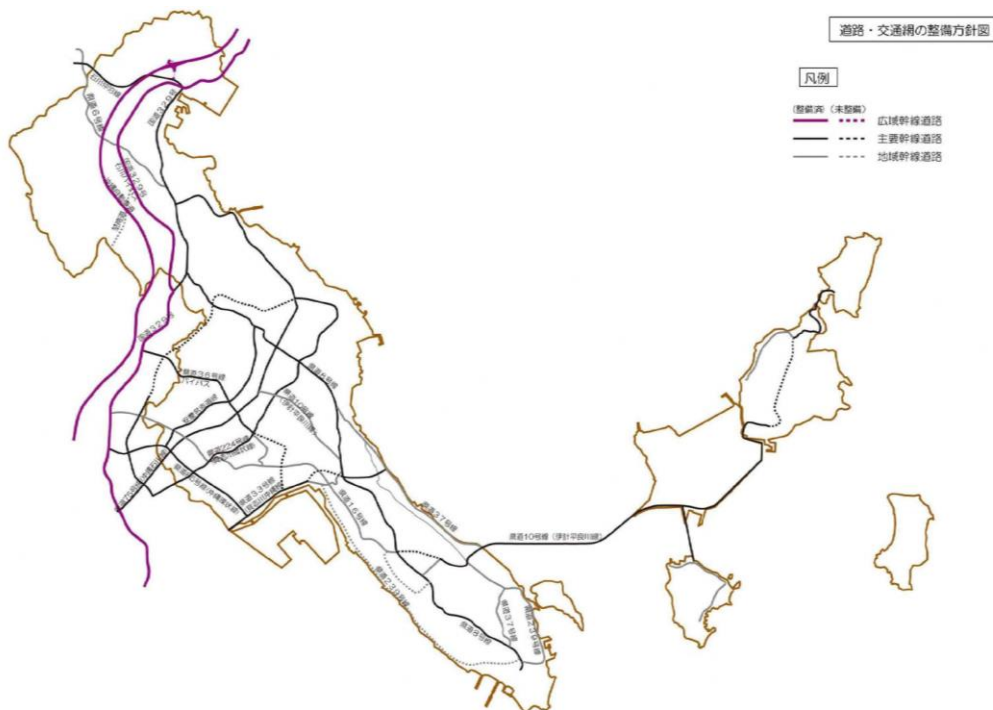


図 3 道路・交通網の整備方針図

出典：うるま市都市計画マスタープラン

(2) 関連計画の整理

表 1 うるま市の関連計画

うるま市の関連計画	交通施策に関連する主な方針・取組等
うるま市道路整備プログラム	道路整備の整備予定時期
うるま市公共交通システム導入調査	路線バスや LRT 等の公共交通
第 2 次うるま市観光振興ビジョン	街路樹づくり、石川 IC 周辺整備、観光周遊ネットワークの構築推進
勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画	観光拠点のアクセスと案内機能の充実
うるま市公共施設等総合管理計画	客観的な道路整備、都市計画道路の見直し、橋梁の健全度回復
うるま市地域防災計画	地震津波時の交通確保・緊急輸送体制の充実、他

表 2 その他周辺行政区の関連計画

その他周辺行政区の関連計画	うるま市に関連する方針・取組等
沖縄市交通基本計画	将来及び災害時の交通体系（道路ネットワーク等）の構築、他
宜野湾市都市交通マスタープラン	沖縄中南部都市圏の交流を促進する交通基盤整備、低公害、他
浦添市交通基本計画	沖縄中南部都市圏の交通を支える道路ネットワーク、他
那覇市交通基本計画	幹線道路、環状道路の整備、他